

## 〔さとうきび〕

### 1. 作付の概要

2006/2007年さとうきび年期の鹿児島県の収穫面積は9,055 ha、前年比103.5%で前年より300 haあまり増加した。これは熊毛地域では約50 haほど減少したにもかかわらず、奄美地域で約350 haの増加が見られたためである。作型では春植え19.7%、夏植え25.3%、株出し55%であり、夏植えがやや増加した。品種の構成ではF177が減少し、NiF8もやや減少、これらが減少した分、Ni17、NiTn18などの普及が進んでいる。

沖縄県の収穫面積は12,675 ha、前年比101.5%で、前年より190 ha増加した。地域別にみると沖縄本島地域で3.7%、八重山地域で1.1%の増加、宮古地域で1.8%の減少であった。作型では春植え12.2%、夏植50.1%、株出し37.7%で、前年と比較すると夏植え、春植えの比率が増加し、株出しの比が3.4%低下した。品種の構成ではF161、F177、NiF8、Ni9が減少し、Ni15、Ni17、NiTn19、宮古1号などの普及が進んでいる。鹿児島県においては分蜜糖工場の製糖は種子島で始まり（2006年12月5日）、徳之島で終了した（2007年4月16日）。沖縄県では分蜜糖工場の製糖は沖縄本島南部で始まり（2006年12月20日）、宮古島および石垣島で終了した（2007年4月9日）。

### 2. 作柄の概況

鹿児島県熊毛地域では3月から4月にかけて低温であったが、7月以降の高温と多日照により生育は持ち直した。奄美地域では3月から4月は比較的低温で推移した。梅雨明け後10月ころまで降水量が少なく生育が停滞気味となった。9月中旬に台風13号が接近し、熊毛地域ではほとんど被害がなかったが、奄美地域では一部で茎の倒伏、折損、潮風害が発生した。鹿児島県全体としては収穫面積は増加し、10アール当たり収量も、県平均で6,266 kg、前年比2.7%増加した。その結果、総生産量は567,374トンで前年実績を33,780トン、6.3%上回った。甘蔗糖度の県平均は14.5%で、こちらも前年度を1%近く上回り、結果として歩留りは向上、産糖量も13.7%増加した。

沖縄県では3月から6月末の梅雨明けまでは、ほぼ全域において平年並み以上の降水量があった。また、概ね生育期間を通して、気温は平年並みから高めで推移した。10月までに6個の台風が接近したが、八重山地域に大きな被害をもたらした台風13号（2006年9月15～17日）以外は、各地域とも台風による被害は小さかった。沖縄県においても鹿児島県と同様に収穫面積はやや増加した。10アール当たり収量の県平均は5,848 kgで、前年の5,422 kgを7.5%上回った。このうち、単収が大きく伸びたのは沖縄本島および周辺離島地域（5,276 kg）、宮古地域（6,592 kg）で、八重山地域の単収は微増にとどまった。さとうきびの総生産量は741,284トンで前年実績より9.1%の大幅な増加となった。地域別にみると前年に比べ、沖縄地域で15.7%、宮古地域で3.7%、八重山地域で2.6%の増収であった。甘蔗糖度の県平均は14.6%で前年度を0.2%上回り、結果として歩留りは向上、産糖量も11.4%増加した。

（九州沖縄農業研究センター バイオマス・資源作物開発チーム（さとうきび育種ユニット） 松岡誠）

2006/2007年期の沖縄、鹿児島両県のさとうきび生産実績

県別	年次	農家戸数 (戸)	収穫面積 (ha)	10a 当たり 収量 (kg)	収穫量 (ton)	甘蔗糖度 (%)	産糖量* (ton)	歩留まり** (%)
鹿児島	06/07	10,060	9,055	6,266	567,374	14.5	71,502	12.61
	対前年比	96.7	103.5	102.7	106.3	106.6	113.4	106.8
沖縄	06/07	17,748	12,675	5,848	741,284	14.6	92,814	12.35
	対前年比	100.6	101.5	107.5	109.1	101.4	111.4	101.8
両県合計	06/07	27,808	21,730	6,022	1,308,658	-	164,316	-
	対前年比	99.1	102.3	105.4	107.9	-	112.2	-

\* : 含蜜糖を含む生産量

\*\* : 分蜜糖のみの歩留り

平成 18/19 年 期 さとうきび及び甘しや糖生産実績（鹿児島県、沖縄県）より抜粋、編集。